

【NPO 法人サウンドウッズ】

森から木造建築まで地域産木材流通をコーディネートする人材育成事業

〈事業の背景〉

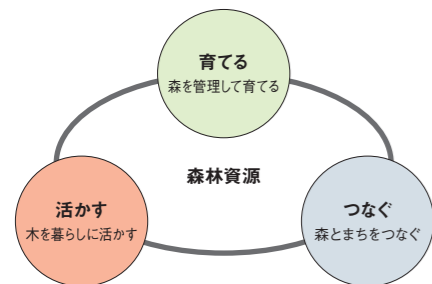
林業の問題点は多段階かつ複雑な流通過程

森と町の生活を心地よく繋ぐ

Bグループは「山と木造建築をつなぐ新しい仕組み」の構築に関わる提案によって採択された、2つの拠点事業が登場します。その1つであるサウンドウッズは、2003年に活動を開始した兵庫県丹波市及び京都市に本拠を置くNPO法人です（NPO法人化は2010年3月）。サウンドウッズという組織名の「sound」とは、「健全な」「健康な」「無傷の」「安全な」「堅実な」「合理的な」等を意味しており、つまりsound wood(s)とは「健康で安全な木」といった意味の名称です。

そんなサウンドウッズでは、これまで、森林と国産木材に関わる事業を活発に展開してきました。たとえば、森林所有者に対する森林資源活用の提案活動や独自の立木直接販売システム「sound wood(s)」（森林所有者が保有する立木を一般消費者へ直接販売するためのシステム）の運営。そして、木材コーディネーター

■サウンドウッズの理念



にターの育成や地域材活用による公共木造施設建設事業のプロデュースなども行っています。

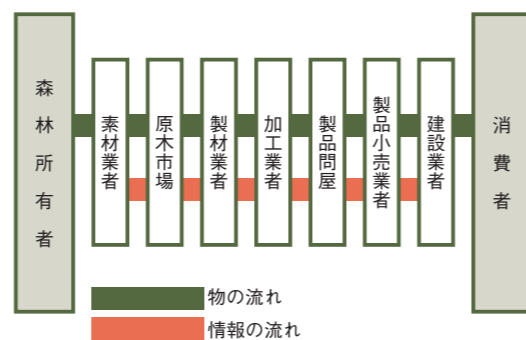
つまり、森を「育て」て、これを人々の暮らしに「つなぐ」、木を人々の暮らしに「活かす」ことを目指し、さまざまな事業を展開しています。そして、この一連の事業の中でも、特に森と人々を「つなぐ」部分の機能に位置づけた新しい取組みが、今回、担い手育成拠点事業として採択された「木材コーディネーター」育成事業です。

多段階かつ複雑な流通過程の問題点

国産木材の需要減少と価格の低迷により、日本の森林資源は継続的な育林が難しくなっています。わが国の森林資源と林業は、かつてない厳しい環境に置かれていると言わざるをえません。サウンドウッズでは、このような状況が生み出された原因の一つとして、わが国独特の国産木材流通システムの問題に着目しました。

わが国の林業界においては、森から切り出した国産木材が森林所有者から消費者のもとに届くまでの間に、きわめて多段階かつ複雑な流通過程を経るのが一般的となっています。たとえば森林所有者から素材業者を経て原木市

■一般的な国産木材の流通



場に至った原木は、製材業者で製材され、加工業者に建材へ加工され、さらに製品問屋、製品小売業者を経てようやく建設業者の元に到着。ここでようやく建物となって消費者送り届けられます。—このような仕組みが、国産木材のコストダウンや厳密な品質管理、あるいはきめ細かい情報の流通などを難しくしています。裏返せば、こうした複雑な流通過程をコンパクトにまとめ、複雑に絡みあった関係業者間のネットワークを整理して、多岐に渡る情報を一括管理できれば、この業界においても、より効率的な品質管理やスケジュール管理が実現できるとしています。

このような発想から生まれたのが今回の提案。「森から木造建築まで、地域産木材流通をコーディネートする人材育成事業」による「木材コーディネーター」の育成です。

〈担い手像〉

森と町を結び木材を活かす木材コーディネーター

森と町を「つなぐ」担い手

この「木材コーディネーター」が、サウンドウッズの提案する「担い手」像となります。

- ①森を管理して「育てる」
 - ②森と町を「つなぐ」
 - ③木を暮らしに「活かす」
- という、サウンドウッズの3つの取組みのうち、「つなぐ」に値するものを「担い手」と位置づけています。すなわち、木材コーディネーターとは、従来の多段階で複雑な国産材流通過程をコンパクトにまとめて、関係する業者間の情報を一括管理することにより、いっそ

■木材コーディネーター：育成を目指す担い手像

- ①地域材流通の現場で、原木価格低迷の影響を受ける良質な森林を所有する林業家の側に立ち、確実な品質の良質材を求める木造建築マーケット構築と販売促進を支援する担い手
- ②流通の顕在化による「森」と「まち」の顔の見える関係を築き、木材を使うことで循環資源としての次世代の森づくりに消費者が参加できる仕組みを支援する担い手
- ③原木から木造建築・木材製品までの品質を見極め、消費者に確実な製品と情報を提供するノウハウを持った担い手

↓

森林資源の循環再生産を実現し、木材の確実な品質管理&情報管理によって質の高い木造建築を実現する

う効率的な品質管理やスケジュール管理を実現していく存在です。

つまり、建築会社の個別の計画に合わせて森から製品化に至る流れをトータルに管理しながら、木材をあつらえる役割を担っているといえます。林業家・森林所有者には、そのコストダウンと安定した森林経営を支援し、建主にも、森と直結する高品質な木材を必要スケジュールにあわせてローコストに調達できる、という大きなメリットが生まれます。

次世代の森づくりへの担い手

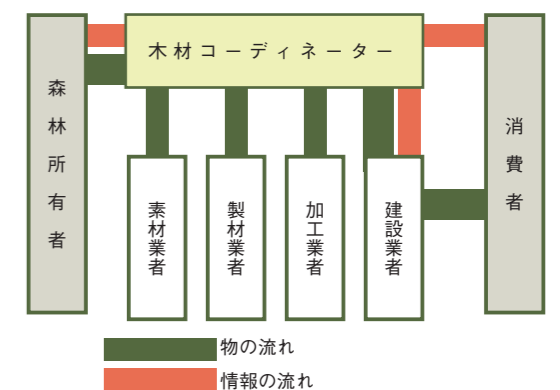
まず、地域材流通の現場において、木材コーディネーターは、原木価格低迷の影響を受けている良質な森林を所有している林業家の側に立ちます。そして、確実な品質の良質材を求める「木材建築マーケット」の構築とその販売促進を強力に支援する担い手として活動します。同時に、その流通を顕在化させることによって「森」と「まち」の「顔」が見える関係を築きあげます。さらに木材を使うことにより「循環資源」としての次世代の森づくりに消費者が参加できる仕組みづくりを支援する、あらたな担い手とも言えます。木材コーディネーターに求められ

るスキルとしては、原木から木造建築・木材製品まで確実に品質を見きわめる知識と眼、そして消費者に確かな製品と情報を提供できるノウハウが必要です。

サウンドウッズは、このような木材コーディネーターが数多く誕生し、確実に機能していくことにより、わが国森林資源の健全な循環再生産の実現に寄与し、さらに木材の確実な品質情報管理によって高品質な木造住宅が実現されていくことを目指しています。

この木材コーディネーター育成の取り組みは、今回の「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」の募集に合せて作られたものではなく、サウンドウッズが設立当初からのもので、その蓄積を活かして、今回の「担い手育成拠点事業」へ取り組み、一層充実したものにしようとしています。

■木材コーディネーターによる国産木材の流通



〈事業内容〉

サウンドウッズの育成計画と仕組み

育成だけでなくその周知も重要

「木材コーディネーター」の育成によって、閉塞状況にあるわが国の森林資源の循環再生産を活性化し、さらに木材の確実な品質管理と情報管理によって質の高い木造建築を増やしていく。——これがサウンドウッズの提案の骨子です。このような提案を実現していくには、もちろん「担い手」である木材コーディネーターの育成が核になりますが、それと同様に重要なのが、この新しい専門職そのものの広報宣伝に関する展開です。

この木材コーディネーターは、サウンドウッズが創出した専門職であり、これまでのわが国の林業の世界には存在していなかったポジションでもあります。しかも、この新しい職能は既存の流通の仕組みを大きく変えることを企図するものでもあり、ただ人材だけを育てただけでは、業界がそして木材流通の現場が、そのままの形でその人材を受入れてくれるとは限りません。

そこでサウンドウッズは、国産材の製造から流通にかかわる業界関係者全体へ広く呼びかけ、この木材コーディネーターという新しい専門職の位置づけや役割、必要性などを正しく伝えてネットワークを構築。その存在を広範囲に周知徹底していく必要がある、と考えています。

サウンドウッズの取組みは、この木材コーディネーターの人材育成と共に、その新職種の世界への普及、及びネットワーク構築も、事業の大きな柱と

置づけました。このことは、同時に木材コーディネーターへの若い志望者の確保という点も重要な課題となります。

平成 22 年度事業の 3 つの柱

初年度の平成 22 年度、サウンドウッズは、実施事業として 3 つの事業を掲げました。1 つ目は、木材コーディネーター普及のための環境づくりです。木材コーディネーターの役割や必要性を伝えるため、関連する教育機関や一般市民、そして自治体行政それぞれへ向けた「木材コーディネーター普及活動を展開しました。具体的には、教育機関向けセミナー、一般市民向けセミナー、自治体行政担当者向けセミナーという 3 種のセミナーを柱に「木材コーディネーターの役割周知」を進めていきました。

3 種のセミナーの内容は、まず教育機関向けセミナーでは、木造建築物設計演習フィールドの提供と地域産木材流通の現場見学等を行いました。また一般市民向けセミナーは、地域カーボン・カウンセラー（※）養成講座と森林及び木材利用の現場研修の受け入れが中心となりました。そして、自治体行政担当者向けのセミナーは、サウンドウッズの地元である兵庫県内の市町事業企画担当者向けにセミナーが開催されました。これらのセミナーでは、主に森林資源の成り立ちや木材活用による森林の育成など、木材コーディネーターの背景となる部分をテーマに、森づくりや木材活用への理解を促したの

です（次頁で詳説）。

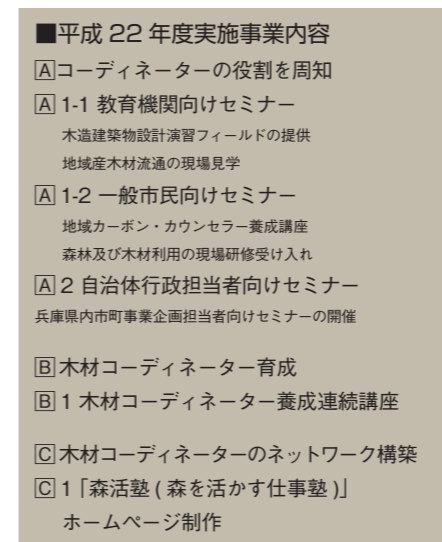
養成講座も試験的に実施

2 つ目の柱は、事業の中核となる人づくり、木材コーディネーターの育成です。初年度ということもあって試験的に 10 名の受講者を集め、サウンドウッズ主催により、実際に「木材コーディネーター養成連続講座」が実施されました。講座カリキュラムの内容としては、マーケティング実習、ワークショップ、基礎知識習得講座・考査、実技習得演習等で構成。1 泊 2 日の講座を合計 6 回にわたって開催し、木材の品質管理やスケジュール管理など、具体的な業務管理ノウハウを身に付けるための基礎 & 実践講座が準備されました。そして、一連の講座が終了すると、最後にはプレゼンテーション形式による、研究報告会を行いました。

また、3 番目の木材コーディネーターのネットワーク構築は、この新しい職能の活動を支えるための支援体制の整備事業です。初年度は、専用のホームページである「森活塾（森を活かす仕事塾）」のホームページを立ちあげました。

※「地域カーボン・カウンセラー」：国や地方自治体と連携し CO₂ 排出量削減を目指し、地域の実情を踏まえた指導やアドバイスを行う民間資格

【平成 22 年度の木材コーディネーター養成講座】



■平成 22 年度実施事業内容

- ▲ コーディネーターの役割を周知
- ▲ 1-1 教育機関向けセミナー
木造建築物設計演習フィールドの提供
地域産木材流通の現場見学
- ▲ 1-2 一般市民向けセミナー
地域カーボン・カウンセラー養成講座
森林及び木材利用の現場研修受け入れ
- ▲ 2 自治体行政担当者向けセミナー
兵庫県内市町事業企画担当者向けセミナーの開催
- 木材コーディネーター育成
- 1 木材コーディネーター養成連続講座
- 木材コーディネーターのネットワーク構築
- 1 「森活塾（森を活かす仕事塾）」
ホームページ制作

〈成果と展望〉

豊かな実績を基盤に踏み出す新たな一歩

平成 22 年度の環境づくり

サウンドウッズは、環境づくり・人づくり・支援体制整備を 3 本柱として事業を実施しました。

まず、木材コーディネーターの役割を周知させるために実施された 3 種のセミナーについて、概要を紹介します。

「教育機関向けセミナー」は、関西大学の建築学科 3 年生の学生を対象に 2010 年 10 月から 12 月にかけて、サウンドウッズの演習林及び関連会社の製材工場、木材展示場、モデルハウスなどを利用して開催しました。具体的には、木造建築を学ぶ学生に、森と町を木材利用で結びつけ、地域産木材の活用を促進する役割としての木材コーディネーターの必要性を訴求。木材利用により森づくりが促進される持続的な森林経営の実践について、セミナーや見学、演習を通して理解を促しました。

一般市民向けのセミナーは、カーボン・カウンセラー研修の受講者 60 名を対象に「地域カーボン・カウンセラー養成講座 森林及び木材利用の現場研修」とし、2011 年 2 月に丹波市の交

流施設及び関連会社製材工場、木材展示場、モデルハウスを利用して開催しました。テーマは地域の森林と林産業の現状、地域産木材の特性・現状と課題でした。

一方、「自治体行政担当者向けセミナー」は、2011 年 2 月に神戸と豊岡の 2 会場それぞれ 1 日ずつ開催されました。参加対象となったのは、兵庫県内市町の政策立案担当及び森林林業木材利用事業実施担当。神戸会場では 29 名、豊岡会場も 24 名が集まりました。セミナーでは自治体主導の森づくり構想の事例や県内外の木材利用の具体例を紹介。事業実施に活用できる国・県の制度等、各種の情報が提供されました。なお「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」施行により、同セミナーは公共事業発注に関わる国・自治体の施策について情報共有が測れる有益な機会となり、公共事業で地域産木材の活用を図っている市町自治体担当者からは、木材コーディネーターに対する大きな期待が寄せられました。

木材コーディネーター養成講座

次に、木材コーディネーターの職能を確立し、人材育成を図るための木材コーディネーター養成講座は、10 名を集めて試行的に実施されました。基本的には、具体的な業務管理のノウハウを身に付けるための基礎・実践講座として準備され、加えて森づくりと木材利用の関係を理解し、循環資源である木材の活用による地域環境への貢献度や、木材が持つ新しい消費者ニーズに対する深い理解を備えた新たな価値観を持つ技術者養成を目指したものであります。

講座の内容としては、座学、考査による基礎知識習得、また森林の立木から建築部材に至るまで一連の製材加工過程を受講者みずから体験する演習。特に森林や木材をテーマとする一般市民向けの市民講座の企画運営への参加と、これによる市民ニーズの調査と企画運営ノウハウを身に付けるマーケティング実習などは、受講生にも大変好評でした。なお、受講者としては今回、

建築士（意匠・構造）や現場監督、大工、材木店スタッフ、行政実務者（林務行政担当）など、バラエティ豊かな実務者が参加し、そのため基礎講座として提供すべき内容の焦点をどの分野に絞り、どの程度専門レベルに設定すべきか見きわめる上で、有効な試験的实施となりました。

最後に、フォローアップのための木材コーディネーターのネットワーク形成に関しては、前述の通り、Web 上に受講者その他のためのネットワーク「森活塾（森を活かす仕事塾）」が設置されました。このネットワーク構築サイトは関係情報の集積場として、また関係者間双方向の情報交換の場として機能し、さらにコンテンツの充実を目指しています。また、森林の恵みを町に届ける仕掛やさまざまな専門的ノウハウを提供していく講座も、展開していく計画です。

明らかになった課題と今後の展望

平成 22 年度に実施した事業を通じて、本育成事業に関する幾つかの課題が明らかになりました。まず、木材コーディネーターの役割周知に関しては、社会的な認知はまだこれからであり、今後も引き続き普及活動を展開していく必要があるということです。

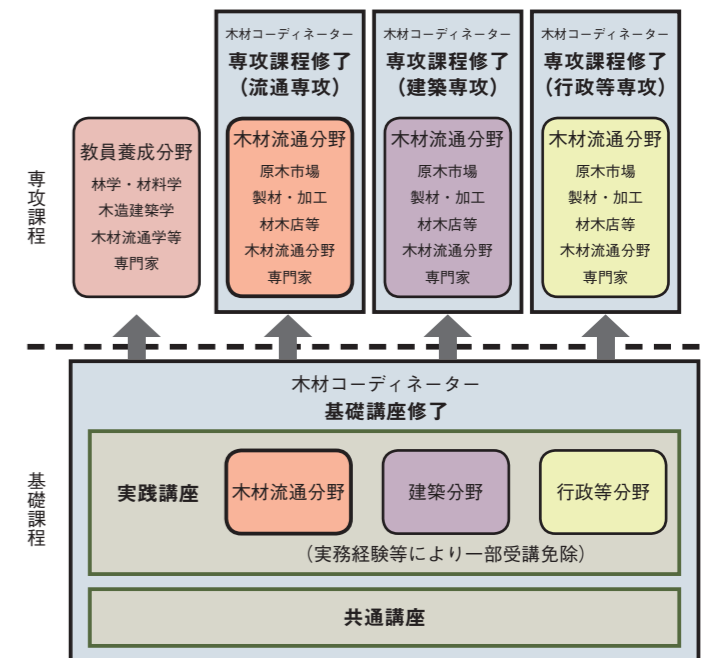
一方、初年度は試行的に行われた木材コーディネーター養成講座に関しては、職種自体が川上から川下の木材流通全般に関わる広汎な分野の内容を習得する必要があり、コンテンツ作り

に苦慮しています。受講者からも、自身にとって未知の分野の学習時間の充実を望む声が多く、サウンドウッズではこれをカリキュラム編成の大きな課題と捉え、22 年度の講座カリキュラムをベースに、コンテンツ作りの中で改訂していく計画です。より汎用性の高い基礎的分野の理解を進めるよ

うな、講座の充実が必要と感じています。また、この基礎部分の講座とは別に、より深く実務に活かせる技術習得を目指す専攻課程の創設も検討を進めています（図版参照 ■木材コーディネーターの基礎講座と専攻課程）。

なお、今年度の木材コーディネーター養成講座受講者には、全カリキュラム履修者に講座修了書を発行しました。当初は認定制度も検討していましたが、認定主体や木材コーディネーター自体の持つべき技術と役割についてさらに議論を深め、それに相応しい認定制度の形を検討していきたいと考えていました。また今後検討していく認定制度については、より広範囲に普及させて

■木材コーディネーターの基礎講座と専攻課程



いくためにも、全国組織との連携を模索していきたいとしています。

■明らかになった課題と今後の方針

- ①木材コーディネーターの役割の周知と活動環境の整備
→セミナーや交流イベント等の開催により、木材コーディネーターの役割や必要性の周知を、積極的な普及活動で拡大
- ②木材コーディネーターの育成手法
→基礎過程講義内容の仕分けと受講者レベルの設定
→木材コーディネーター養成講座専攻課程の創設
- ③木材コーディネーター認定制度と支援体制の構築
→より広域な波及効果を促すため、全国組織との連携による認定制度の構築
→講座修了者や講師・専門機関などとの情報共有を図るネットワークの構築と、ネットワーク管理手法の構築
(学問領域として木材流通学の学びをつくる)



一般市民向けセミナー



教育機関向けセミナー



自治体行政担当者向けセミナー